

◎横浜市トライアスロン協会
(YTA)

〒245-0016 横浜市泉区和泉町6-232-3

E-メール : koganezawa@s7.dion.ne.jp

URL : <http://www.yssp.or.jp/ysa/dantai/kyougi/triathlon.htm>

TEL (18:00以降) : 080-3010-5630

世界トライアスロンシリーズ横浜大会開催

5月11日(土)～12日(日)にかけて2013世界トライアスロンシリーズ第3戦となる横浜大会が、山下公園をメイン会場として盛大に開催されました。当大会は、2012年にイベントマネージメントの持続可能性に関する国際規格である「ISO20121」の認証を日本で初めて取得し、「自然環境にやさしいトライアスロン大会」を目指しています。

初日の11日(土)はエリートの部で世界のトップアスリートが横浜に集結しました。

スタートセレモニーに続き午前8:06に女子がスタートし競技が開始されました。海外の主要選手ではグウェン・ジョーゲンセン(アメリカ)、マイケ・カーレース(オランダ)、エマ・モファット(オーストラリア)。日本代表選手では井出樹里、上田藍、佐藤優香等、計22名の選手が参加して熱戦が繰り広げられました。優勝は、グウェン・ジョーゲンセン(アメリカ)で1時間57分5秒。日本人最高は、11位に入った佐藤優香の1時間59分29秒でした。

女子に引き続き午前11時1分に男子がスタートしました。海外の主要選手では、ジョアン・シルバ(ポルトガル)、ハビエル・ゴメス(スペイン)、ジョナサン・ブラウンリー(イギリス)。日本代表選手では、田山寛豪、山本良介、細田雄一等、計41名の選手が参加して白熱したレースが展開されました。優勝は、ロンドン五輪銅メダルのジョナサン・ブラウンリー(イギリス)が1時間44分59秒。日本人最高は22位に入った田山寛豪の1時間49分21秒でした。

今年は、天候が朝方は曇りでしたが昼前に雨が降り出し気温・水温も低く生憎のコンディションとなってしまいました。天候の影響が沿道の応援も昨年に比べ若干少ない感じでしたが、選手が通過するたびに盛大に声援を送っていました。



12日(日)はパラトライアスロン、エイジグループ、リレーに国内外から約1,200名が参加して行われました。前日の雨も早朝には上がり新緑の映える五月晴れの中、絶好のレース日和となりました。沿道の観客も多くなり初夏の休日を楽しみながら熱い声援を送っていました。

7:15にパラトライアスロン(障がい者クラス)の24名がスタートし競技が開始されました。今年からは、パラトライアスロン部門が2016年のリオデジャネイロ・オリンピックの正式種目として採用されるのに伴い、エリートの部と同様にITU主管競技として実施されました。パラトライアスロンは、障がいに応じてカテゴリーが7つに分かれています。特に視覚障がいクラス(TRI6)は、「ガイド」と呼ばれる伴走者がマンツーマ

ンで付いて一緒にレースを行います。ガイドは、バイクやランではレース中のコースの状況や、周りの風景、次の行動の内容等、実況中継しながら一緒に競技しており、選手以上の身体能力が要求されると共に選手との信頼関係が成り立たないと良い結果が残せなくなります。パラトライアスロンの選手が通過する際には、多くの観客が感動したようで盛大な声援と拍手が鳴り響き、心から選手に応援している様子が伺えました。



引き続きスタンダード(スイム 1.5km、バイク 40km、ラン 10 km)、スプリント(スイム 750m、バイク 20 km、ラン 5km)とリレー(スイム 1.5km、バイク 40km、ラン 10 km)があり、1,140 名の選手が出場し競技が行われました。スイムでは、水温が低かったことや、昨年より制限時間が5分短縮されたためかりタイヤや制限時間オーバー等が多く発生しました。スイムからトラジションに向かう際にも寒さで顔色が悪い選手も散見されましたが、バイクパートに移ってから棄権された選手は少なかったようでした。季節柄低体温障害が危惧され万全の態勢で臨みましたが、大きな事故もなく無事大会が終了できたことは何よりでした。

大会前日には、選手登録、競技説明会、バイク預託受付等、選手向けの対応も本格化しスタッフも多忙を極めました。特に、トラジション担当スタッフは、雨の中でのバイク預託受付を 20 時まで対応しているため大変でした。翌日は午前 6:00 のオープン前に集合し準備を整えなければなりません。前日が雨のためバイク預託が 160 台程度と少なく、レース当日搬入する選手が多くいると予想され混乱しないよう万全の態勢で対応しなければなりませんでした。また、競技終了後も、バイク引取終了まで待機するためスタッフは気の休まる暇もない状況でした。

このような大きな大会は、多くのスタッフや関係機関等によって支えられています。大会事務局をはじめ、地方公共団体、警察、消防、報道機関、そして審判員、ボランティア、警備員等、多くの人たちの協力があって運営がされており改めて感謝する次第です。今年は、先のボストンマラソンでのテロ事件を教訓に警備体制を強化して臨みましたが、大きな混乱やトラブルもなく無事終了できたことは幸いです。「備えあれば憂いなし」の精神でこれからも対処してゆく必要性を強く感じました。

来年に向けて今年の反省を含め大会運営の改良を加え、参加者皆さんが安全で楽しめて環境にやさしい大会を目指し、「トライアスロンの街、横浜」の定着を図ってゆきたいです。



■参加者レポート■

【選手として】

横浜大会に参加し大会を通して選手以外の救護の方々の有難さを感じた。

前日の説明会でルール説明とメディカルの話があり、メディカルの方から「全力で守るので皆さんも気を付けて」という言葉が印象的だった。石垣島大会のスィム事故の話があり不安に思っていた。

当日の水温 20℃で海に入ると冷たくてビックリしたが、スタートしたらまわりにレスキュースタッフが大勢見え、安心してレースに集中できた。

晴天に恵まれ強い日差しですっかり夏日になり、バイクコースはみなとみらいの景色を楽しみながら快適に走れた。ランニングになると暑さが増し熱中症や脱水を心配したが、塩タブレット配布やこまめな給水の促しと給水場所の多さで安心できた。

前日の説明会や当日の救護の方々に支えられ大規模な大会で大きな事故やトラブルもなく、本当に楽しむ事ができた。

来年もまた、レースが楽しめるよう練習していきたいと思った。(河野芙美子さん)

【選手として】

去年はTVや応援で見ていた横浜大会。今年は、選手として初めて参加した。今回の大会では、ひょんなことから大会書類の発送のお手伝いをさせていただいた。運営の一端を知ることが出来て、いつも以上にスタッフへの感謝の気持ちとスタート出来る喜びの気持ちが湧いてきた。

前日までの悪天候が嘘のような最高のコンディションに恵まれた大会会場。ポンツーンやブイがTVで見たものと同じなのでミーハーな気分が盛り上がる。氷川丸、ランドマークタワーを見ながらのスィムパート。チームメイトは勿論、知らない方からもたくさんの声援をもらえるバイク・ランパート。そしてフィニッシュ。本当に素晴らしい大会だった。

来年は、選手、応援、スタッフどんな立場で参加することになるのかわからないが、来年もまたここに来ようと思う。(相澤真徳さん)

【スタッフとして】

これまでは選手として仲間の応援として参加してきたが、今回は、裏方もまた違う大会の楽しみ方もあるのではないかと思ってお手伝いさせていただいた。

レース当日は、朝の5時半集合ミーティング後、担当となるバイクコースのエリアまで移動。ここで再度、自分のやるべきことを確認。渡されたマップを見ながら疑問に思ったのが、道路沿いに置く柵やコーンはいったい誰が設置するのか？道路が封鎖される7:00から7:15までの15分間で、私達マーシャルだけで行なうのか？しかし、その後から続々とスタッフの方々がいらして、それらの準備を手際良くあっという間に行なっていた。マーシャル以外の存在はまったく頭になかったが、役割分担のことは事前に確認しておくべきだった。

このこともあり、緊張と不安の中でレースが始まった。まずはパラの方がバイクコースを通過。障がいを持った方が一意でないのが、様々な形状をしたバイクを見た。通常の足で漕ぐタイプから、手だけで漕いだり、また二人乗りだったり。障がいを持った方でも、このような形でレースに参加できることは、とてもすばらしく希望が持てた。

その後、エイジの方が徐々に増えてきた。さて、自分のすべきことは何か？ドラフティングのチェック、レースナンバーが付いているか、そしてゼッケンは後ろ向きになっているか？そして、事故防止を重要視した。その中でも一番気を使ったのが、一般の方が道路を横断するのを誘導すること。バイクコースは、道路を往復で使うためバイクが中々途切れない。そのため、横断したい方もしばらく渡ることができず、申し訳ない気持ちでいっぱいになった。そしてその横断するタイミングは私が判断することになる。その判断を間違えるとバイクと接触し大事故に繋がってしまう。なかには痺れを切らして無理に渡ろうとする方もいて、かなり気を使った。

レース開始の7時から13時までの6時間ずっと立ちっ放しで、足も腰も痛くかなり辛く思った。こんな思いをしながらレースを支えているのかと思ったら感謝でいっぱいになる。

今後はレースに参加する時の考え方も変わってくると思う。今回は勉強になることばかりだった。また機会があれば参加したいと思っている。(松田裕行さん)

Green・Triathlon(グリーントライアスロン) 開催

山下公園で4月13日、「自然環境にやさしいトライアスロン大会」を目指すイベント「Green Triathlon」が開催されました。

このイベントは、今年で4回目の開催となる「トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会」の1カ月前プレイベントとして実施されたものです。同大会は、前大会に引き続き持続可能な大会運営となっていることを検証するため「ISO20121」の取得を目指しますが、このISO20121が承認されるためには「環境」「社会性」「経済性」が重要な3本柱となっており、とりわけ第一項にあげられた「環境」対策について、スイム会場となる山下公園前の海や、バイク・ランコース、フィニッシュエリアが設けられる公園内の清掃などを行い、自然環境にやさしいトライアスロン大会をアピールすることを目的として開催されました。



みなとみらいを背景にチーズ!



バイク試乗中

このイベントで恒例となっているスイムコースの試泳は今年も行われ、横浜国立大学、日本体育大学のトライアスロン部の学生さんたち18人が、水温16度の横浜港を元気よく泳ぎ、横浜港がきれいな海であることを身を以てアピールしてくれました。試泳を行った学生さんの一人に話を聞いたところ、「泳いでいる自分の指先を十分に確認できる程の透明度があり、低い水温ながらも泳ぎやすかった。」とのことでした。

また、今年新たにトライアスロンの審判員とされた方向けの審判講習会も行われました。5月の本大会でのデビューを目指し、座学による講習に加えて実技指導も行われました。参加された方々は、先輩審判員による熱の入った指導で、審判活動に対す

る理解と自信を深められたことと思います。講習会終了後には、横浜市消防局の救急救命士の方から心肺蘇生法とAEDを使用した救命処置の指導も受けました。AEDのパッドを貼り付ける前に汗や血液を十分に拭き取らなければならないことや、体毛が濃い場合はその体毛を剃らなければAEDの効果が十分に得られないことなど、アスリートの緊急事態を想定した貴重な話を聞くことができました。

今イベントは環境を意識したイベントということで、来場される際はCO2削減の為に公共交通機関のご利用をお願いしていましたが、参加したYTAのメンバーの中には、16キロ離れた自宅からランニングで来るという方法でエコを実践した方もいました。

◀ 用語 ▶

● Green Triathlon(グリーントライアスロン)

国際トライアスロン連合 (ITU) と日本トライアスロン連合 (JTU) では、地球環境を意識した「グリーントライアスロン」を推奨しています。大会運営のすみずみまで自然環境に対する負荷を抑える配慮を施し、さまざまな視点からリデュース(減らす)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化)の3Rを目指し、トライアスロンというスポーツを通じてより多くの方に地球環境への意識を高める事を目的としています。

(出典 JTU ニュースリリース 配信日: 2012年4月2日(月)より)

● ISO20121

イベント運営における環境影響の管理に加えて、その経済的、社会的影響についても管理することで、イベント産業の持続可能性(サステナビリティ)をサポートするためのマネジメントシステムで、今回の取得により、横浜のスポーツイベントに取り組む先進性を世界に発信することに加え、大会ブランドイメージの向上が図れるなどの効果が期待できる。

(出典 JTU ニュースリリース 配信日: 2012年11月28日(水)より)

昨年開催されたロンドン五輪はこの規格が適用された最初の例となっており、「2012世界トライアスロンシリーズ横浜大会」の承認は国内では初のケースとなりました。「環境」「社会性」「経済性」の3つの要素の目標値などを自らが設定し、認定機関より評価を受ける「イベントマネジメントの持続可能性に関する国際標準規格」です。

オープンウォータースイム教室開催

スイム+バイク+ラン。これらの総合的な力を競うトライアスロン競技において、ビギナーの方が不安に感じることが多いスイム競技。その不安を少しでも取り除き、「安心してレース当日のスタートラインに立ってもらうこと」を目的とした、YTA主催のオープンウォータースイム教室が、5月4日に海の公園（金沢区）で開催されました。

GW真っ只中の海の公園には、潮干狩りやビーチ遊びを楽しまれる方々は大勢おられました。さすがに5月の冷たい海で海水浴をされている方の姿は見受けられませんでした。そんな中をウェットスーツに身を包んだ29名の参加者の方々は、水しぶきを上げて元気に水に飛び込み、約3時間の指導を熱心に受けられていました。

トライアスロン競技者向けのオープンウォーターでのスイム教室は、各地で多く開催されていますが、そのほとんどは泳力の向上を目指し、競技時間を縮めることを目的としたものになっていますが、私たちの教室ではそれらとは異なり、トライアスロン初心者の方々への安全指導をメインとしたものになっています。



準備体操は入念に



水はまだまだ冷たい

今回の教室は、WTS横浜大会に出場されることを想定した内容であり、同大会で行われる「フローティングスタート」（水中に浮かんだ状態からのスタート）の方法や、スタート直後などに遭遇する「バトル」の模擬体験、反時計回りに回るブイを2カ所設定したターンの方法などの指導などが行われました。水温が16.6度という中で開催でしたが、1週間後に迫っていた横浜大会でも、ほぼ同等の低水温が予想されていたため、冷たい水温を事前に体験して頂く機会にもなりました。

また、これら以外にも、今回の教室にご協力頂いた、横浜トライアスロン研究所の滝川様より、ウ

ェットスーツの正しい脱着方法や競技を安全に行うための講義を行って頂いたり、ライフセーバーの浦様より、競技中の救援の求め方の説明や実際の救護活動のデモを実施して頂いたり、他の教室にはないようなカリキュラムが多数盛り込まれた教室でした。

当協会では、今回のような「安全にスイム競技を行って頂く」ことを目的としたオープンウォータースイム教室の開催を今年度は3回予定しております。今後の開催日時や募集方法につきましては、当協会ホームページに随時掲載致しますので、ご興味のある方は是非チェックしてみてください。



息継ぎするときは真上を見る！



救難者のデモ

2013年度総会報告

4月29日(月)にかながわ県民センターにおいて、横浜市トライアスロン協会 2013年度総会が開催されました。2013年3月末会員数1017名、総会出席者20名、委任状提出者202名(内無効7名)、有効総数215名となり、横浜市トライアスロン協会会則第14条1に基づく総会の定足数を満たしており成立しました。

議事進行は、横浜市トライアスロン協会会長花上喜代志氏の挨拶に続き、会則第15条に基づき議長を選出し議案の審議に入りました。議案は、「1号議案：2012年度活動報告」、「2号議案：2012年度決算報告」、「3号議案：2013年度活動計画」、「4号議案：2013年度収支予算案」、「5号議案：2013年度役員人事」でしたが、各議案は賛成多数により承認されました。

議事終了後、市議会議員で当協会の副会長に就任している川辺芳男氏、黒川勝氏、横山正人氏より、これからは「トライアスロンの街、横浜」の実現に向けて協力していただける旨の発言がありました。なお、総会の承認を得られたため2013～2014年度の運営体制は次の通りです。

- ・会長 花上喜代志
- ・副会長 川辺芳男・黒川勝・奈良島信泰・横山正人
- ・理事長 小金澤光司
- ・理事 伊藤功顕・稲田隆俊・梅田淳・遠藤不二士・亀山秀紀・小池康修
杉浦博・杉浦真由美・鈴木啓吾・鈴木淳一郎・高崎聡・中山俊行
元嶋民夫・吉富浩政
- ・監事 松岡喜久夫

2013年度活動計画

1. 横浜市トライアスロン協会(YTA)主催事業を発展継続させる。(オープンウォータースイム教室など)
2. 世界トライアスロンシリーズ横浜大会及び横浜シーサイドトライアスロン大会を、神奈川県トライアスロン連合と共に成功させる。

【主な活動予定】

4. 13	横浜大会1ヶ月前イベント
4. 29	2013年度総会
5. 4	オープンウォータースイム教室(1)
5. 11~12	2013世界トライアスロンシリーズ横浜大会
6. 1	オープンウォータースイム教室(2)
6. 9	NISSAN CUP 神奈川トライアスロン大会
7. 15	日産スタジアムトライアスロン大会
9. 14	オープンウォータースイム教室(3)
9. 29	横浜シーサイドトライアスロン大会
10. 27	川崎港トライアスロン in 東扇島大会
2月末	JTU 公認第2種審判員認定試験、第3種審判員講習会
2~3月	JTU 認定記録会



第1回日産スタジアムトライアスロン開催！ 2013. 7. 15

2002年サッカーワールドカップ決勝戦の舞台となった日産スタジアムでは、これまで自転車ロードレースやランニング大会が開催されておりますが、ついにトライアスロン大会の開催が決まりました！

スポーツ医科学センタープールで泳ぎ、スタジアム4Fコンコース内をバイクで走り、2Fコンコース内から最後はスタジアム内のトラックを走りフィニッシュするコースを予定しております。

距離は短いですが、小学校低学年から一般の方まで皆さんに楽しんでいただける大会にしていきたいと思っておりますので、多くの選手の皆さんのご参加をお待ちしております。